

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

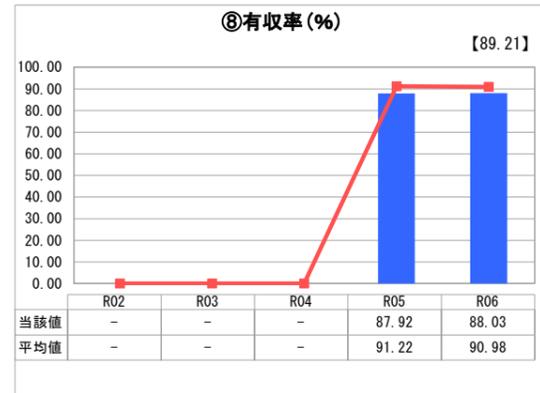
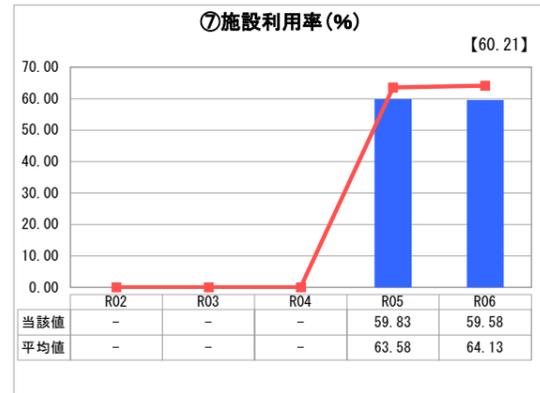
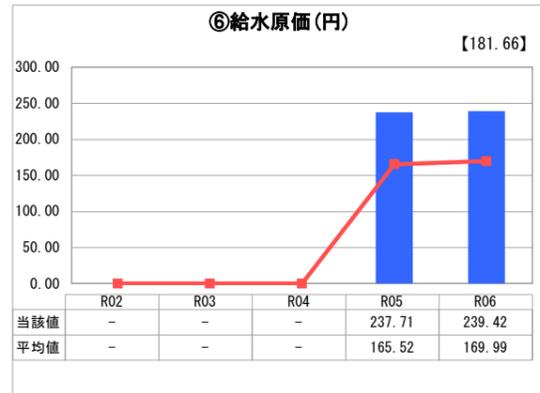
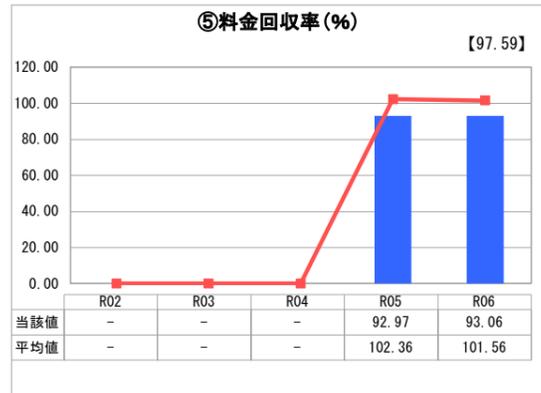
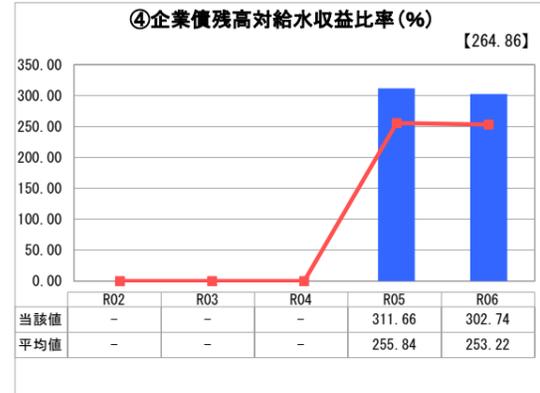
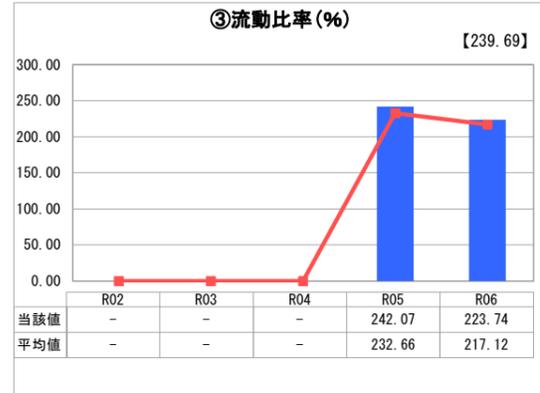
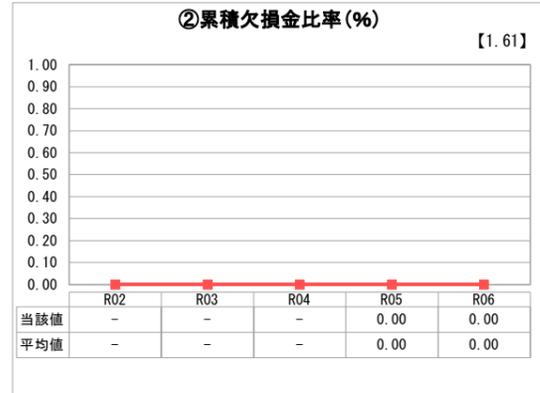
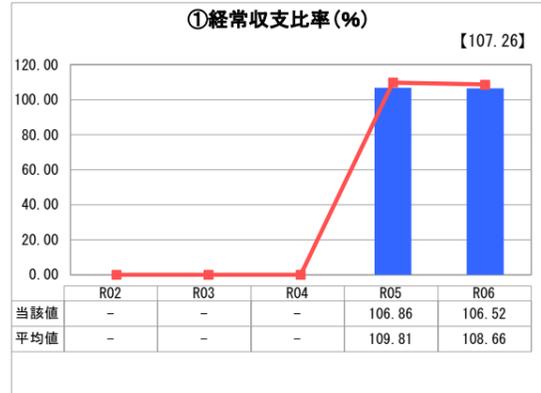
広島県 広島県水道広域連合企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	71.94	88.31	3,840	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
560,303	1,107.58	505.88

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率、②累積欠損金比率】  
 経常収支比率は健全経営の水準となる100%を上回っており、また累積欠損金もないことから、堅調な経営を維持している。

【③流動比率】  
 短期債務に対し支払い可能な現金等の保有状況を示す流動比率は100%を上回り、支払能力を確保している。

【④企業債残高対給水収益比率】  
 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値(以下「平均値」という。)を上回っている。引き続き、経営の安定性に配慮しつつ、計画的な投資を進めて行く必要がある。

【⑤料金回収率】  
 料金回収率は100%を下回っている。給水収益のみでは、給水費用を賄えていないため、一般会計からの繰入金等により収入不足を補っている。

【⑥給水原価】  
 管路延長が長く、管路等の更新費用及び維持管理費用が高いため、給水原価は平均値に比べて高い水準にある。また、物価上昇等による費用の増加により、給水原価の上昇している。

【⑦施設利用率】  
 施設利用率は平均値を下回っている。今後、施設の再編整備を進め、施設総量を最適化していく必要がある。

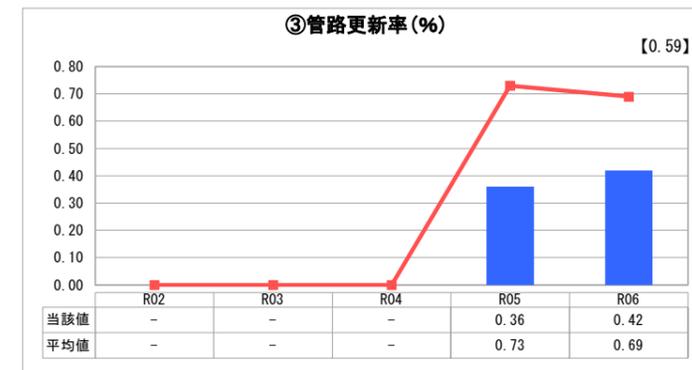
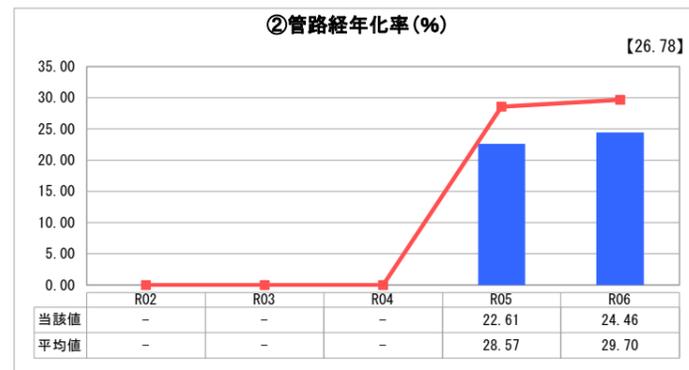
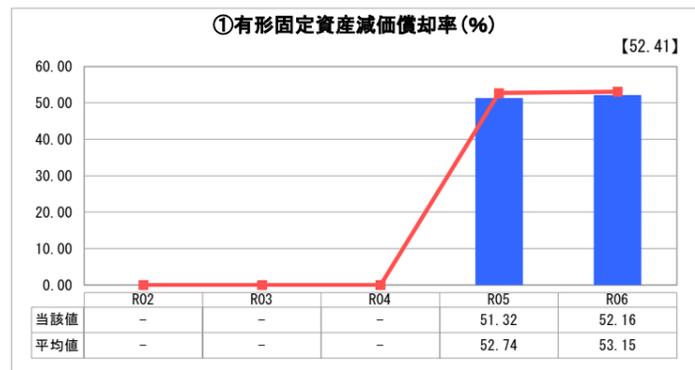
【⑧有収率】  
 有収率は、平均値を下回っており、漏水対策など有収率の向上を図っていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率、②管路経年率】  
 近年に布設した管路が多いことなどにより、有形固定資産減価償却率及び管路経年率は平均値を下回っている。

【③管路更新率】  
 経年管が比較的少ないことなどにより、管路更新率は平均値を下回っている。しかし、管路の老朽化は着実に進行しているため、今後、計画的に耐震管に更新し、老朽化の改善と強靱化を図っていく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

水道事業の経常収支比率は、100%を上回っており、現時点で、堅調な経営を維持している。しかし、社会情勢の変化に伴い、資材価格の高騰や工事費等の費用が大幅に増加するなど、今後、一層厳しい経営状況が見込まれる。本水道企業団では、中長期的な収支見通しなどを勘案しつつ、統合のスケールメリットを活かし、施設の最適化や更新、コスト削減を図るなどして、効率的な事業運営を進めていく。